

## マーケット概況（2021年5月）

5月の債券相場は、大型連休中に米国で発表された経済指標が軒並み市場予想に反する低調な結果であったことを背景に買い先行で始まり、10年362回債は前月末比-1.0bpの0.080%で取引を開始した。7日に緊急事態宣言の期限延長が決定したことや、4月米国雇用統計が予想を大幅に下回る低調な内容となったことに加え、世界的なハイテク株安を受け11日に日経平均株価が大幅に下落すると、10年362回債の利回りは0.070%まで低下した。12日に発表された4月米国消費者物価指数が予想を上回り、インフレ懸念から米国で長期金利が上昇すると相場は上値を重くした。13日の30年債入札が低調な結果となると10年362回債の利回りは0.090%まで上昇し、債券先物6月限は一時151円20銭まで下落した。その後も19日の5年債入札が低調な結果となり、21日に20年債、27日に40年債と超長期債の入札が相次いだことも債券相場の重荷となったが、米国でインフレ懸念とテーパリングへの警戒感が後退し長期金利の上昇が一服すると相場は反発し、10年362回債の利回りは再び0.070%まで低下、債券先物6月限は26日に一時151円60銭まで上昇した。月末にかけては日経平均株価が一時29,000円台を回復したことからやや戻り売りに押され、結局10年362回債の利回りは0.080%で取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は、投資家需要を背景に概ね-0.10%台で推移する動きとなった。7日の3M992回債入札は最高落札利回りが-0.1011%と前回債から小幅上昇した。14日の3M993回債入札は-0.09%台に上昇したものの、セカンダリーでは買いが入り、堅調な地合いとなった。21日入札の3M995回債は発行額の2,000億円減額もあって投資家需要に支えられ、セカンダリーでは一時-0.135%まで低下する場面もあったが、買いが一巡すると金利低下は一服し、最終的には3M997回債は-0.108%で取引を終えた。国庫短期証券買入オペは、月間総額が前月比減額となり、26日実施分は1Yゾーンが全般的に対象外となったが、6M・1Y金利への影響は限定的となり、6M996回債は-0.112%、1Y994回債は-0.133%で月内の取引を終えた。

### <一般債市場>

10年地方債の起債スプレッドは国債カーブ+7.0bpと3ヵ月ぶりに1.0bp縮小したが、前月からの旺盛な需要が継続したことや国債の低金利環境を背景に販売は順調だった。5年地方債は6ヵ月連続して0.01%クーポンで決定し、利率に対する目新しさは無いものの、余資運用先として概ね順調に消化された。既発債も良好な需給が確認され、スプレッド水準は概ね縮小傾向となった。社債は月間発行額が6,522億円と前年同月並みの水準となった。業種別では、保険業（日本生命劣後ローン流動化社債2,000億円）、サービス業（社債区分で起債された中日本、西日本高速道路を含む）、電気・ガス業（電源開発を含む）の3業種が全体の8割超を占めた。

### ◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#362	0.080(6日)	0.070(11日)	0.090(13日)	0.080(31日)
#361	0.070(6日)	0.055(26日)	0.075(13日)	0.065(31日)
#351	-0.040(7日)	-0.055(26日)	-0.025(13日)	-0.040(28日)
#147(5Y)	-0.100(6日)	-0.105(27日)	-0.090(13日)	-0.100(31日)
#176(20Y)	0.450(6日)	0.430(12日)	0.460(13日)	0.445(31日)
#991-#996TDB(6M)	-0.112(6日)	-0.118(10日)	-0.106(6日)	-0.112(28日)
#990-#997TDB(3M)	-0.103(7日)	-0.135(21日)	-0.102(21日)	-0.108(28日)